

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3859111号

(P3859111)

(45) 発行日 平成18年12月20日(2006.12.20)

(24) 登録日 平成18年9月29日(2006.9.29)

(51) Int.Cl.

F I

A 4 5 D 24/22 (2006.01)

A 4 5 D 24/22

B

請求項の数 3 (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2000-22295 (P2000-22295)	(73) 特許権者	000006909
(22) 出願日	平成12年1月31日(2000.1.31)		株式会社吉野工業所
(65) 公開番号	特開2001-204538 (P2001-204538A)		東京都江東区大島3丁目2番6号
(43) 公開日	平成13年7月31日(2001.7.31)	(74) 代理人	100076598
審査請求日	平成16年5月31日(2004.5.31)		弁理士 渡辺 一豊
		(72) 発明者	角田 義幸
			東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会
			社吉野工業所内
		審査官	櫻井 康平

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 櫛付きキャップ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

スクイズ性を有する容器体(16)の口筒部(18)に密に組付く組付き筒(2)の上端に、内鏢状の頂壁(3)を介して前後に扁平な起立筒(6)を立設し、該起立筒(6)の上端に連設された頂板(7)の上面に、横方向に直列に間隔を開けて複数の櫛歯片(8)を立設すると共に、該頂板(7)の上面の両側端部分に枠櫛歯片(11)を立設し、前記各櫛歯片(8)には、その上端部に、横方向に開口する注出孔(9)を貫設すると共に、該注出孔(9)から頂板(7)の下面まで注出路(10)を貫通形成し、少なくとも一方側の前記枠櫛歯片(11)の、前記注出孔(9)に対向する箇所、横方向に開口するピン孔(12)を貫設した合成樹脂製の櫛付きキャップ体(1)と、前記各注出孔(9)およびピン孔(12)に離脱可能に密嵌する直線棒状の栓棒(14)の一端に、指先で摘まむことのできる把手片(15)を設けた栓体(13)と、から成る櫛付きキャップ。

【請求項2】

櫛付きキャップ体(1)を、合成樹脂製一体成形物とした請求項1記載の櫛付きキャップ。

【請求項3】

把手片(15)を、栓体(13)を櫛付きキャップ体(1)に組付けた状態で、各櫛歯片(8)および枠櫛歯片(11)の上端部を覆う樋状構造とした請求項1または2記載の櫛付きキャップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】

本発明は、容器体に収納された白髪染め液やヘアマニキュア等の内容液を、容器体から頭髮に直接塗布すべく構成した櫛付きキャップに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

スクイズ性を有する容器体にキャップとして組付けられ、容器体の白髪染め液やヘアマニキュア等の内容液を直接頭髮に塗布することができるようにした櫛付きキャップとして、従来の、容器体の上端に位置する櫛機能部分の各櫛歯片を横方向に突出させた構成のものに対して、各櫛歯片を縦方向に起立設した構成のものが提案されている（特開平10-137029号公報参照）。

【0003】

この従来技術は、キャップ本体に、容器体の軸心に沿って起立した複数の櫛歯片を、横に一行に配置し、この櫛歯片内に、上端を注出孔として櫛歯片間に開口すると共に、下端を下方（容器体内）に開放した注出路を形成して構成され、櫛歯片を下位に位置させた姿勢で、容器体をスクイズ変形させることにより、注出路を通して櫛歯片間に内容液を注出し、この内容液を櫛歯片を利用して頭髮に塗布するようにしている。

【0004】

このように、内部に注出路を形成した櫛歯片を、容器体の軸心に沿って起立した姿勢、すなわち容器体の口筒部上端開放部分に起立した姿勢となるので、注出される内容液は、各櫛歯片に必然的に均等に配分されることになり、これにより内容液の均一な塗布を得ることができ、また内容液の塗布操作時には、容器体に対して櫛歯片が下位に位置するので、塗布動作と内容液注出動作とを一緒に行うことができ、これにより良好な取扱い状態を得ることができる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記した従来技術にあっては、容器体密閉のために使用中栓体（図5参照）を、二液を混合攪拌して内容液を作成する際の容器体の密閉に利用するので、内容液の作成処理後に、容器体に対する中栓体の取外しと櫛付きキャップの装着とを行う必要があり、このため内容液作成後の取扱い処理が面倒である、と云う問題があった。

【0006】

また、このように内容液作成後に、容器体に対する中栓体の取外しと櫛付きキャップの装着とを行うので、この開閉処理時に内容液の不正漏れ出しが起り易く、この漏れ内容液による頑固な汚れが発生する、と云う問題があった。

【0007】

そこで、本発明は、上記した従来技術における問題点を解消すべく創案されたもので、櫛付きキャップによる容器体の密閉達成を可能とすることを技術的課題とし、もって作成した内容液を速やかにかつ簡単に使用でき、またこの使用を安全に行うことができるようにすることを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記技術的課題を解決する本発明の内、請求項1記載の発明の手段は、スクイズ性を有する容器体の口筒部に密に組付く組付き筒の上端に、内錨状の頂壁を介して前後に扁平な起立筒を立設し、この起立筒の上端に連設された頂板の上面に、横方向に直列に間隔を開けて複数の櫛歯片を立設すると共に、この頂板の上面の両側端部分に枠櫛歯片を立設し、各櫛歯片には、その上端部に、横方向に開口する注出孔を貫設すると共に、この注出孔から頂板の下面まで注出路を貫通形成し、少なくとも一方側の枠櫛歯片の、注出孔に対向する箇所、横方向に開口するピン孔を貫設した合成樹脂製の櫛付きキャップ体を有すること、

この櫛付きキャップ体の各櫛歯片および枠櫛歯片の各注出孔およびピン孔に、離脱可能に密嵌入する直線棒状の栓棒の一端に、指先で摘まむことのできる把手片を設けた栓体を有すること、

10

20

30

40

50

にある。

【0009】

栓体を櫛付きキャップ体に組付けた状態では、各櫛歯片の注出孔は、栓体の栓棒の密挿入により密に塞がれており、またこの栓棒の注出孔およびピン孔への挿入組付きにより、櫛付きキャップ体に対する栓体の密な組付きは、強固にかつ安定して維持される。

【0010】

それゆえ、二液を混合攪拌して内容液を作成する際に、中栓体を取外して容器体内に二液を収納したならば、この容器体の口筒部に、栓体を組付けた櫛付きキャップ体を組付け、そのまま容器体を振ることにより、内容液の混合攪拌を達成することができる。

【0011】

二液の混合攪拌により内容液の作成が達成されたならば、櫛付きキャップ体から栓体を取外して、作成した内容液の注出塗布を行う。

【0012】

請求項2記載の発明は、請求項1記載の発明に、櫛付きキャップ体を、合成樹脂製一体成形物とした、ことを加えたものである。

【0013】

この請求項2記載の発明にあっては、組合せ構造とすることによる組合せ部分の高い成形寸法精度が要求されないので、高い生産性を安定して維持することができ、また組付け代を必要としないので、内容液の注出通路面積の拡大範囲を大きくすることが可能となり、これにより内容液の流動性を高めることができ、さらに一つの金型装置で成形できると共に、組立て作業が不要であるので、製造コストが安くなる。

【0014】

請求項3記載の発明は、請求項1記載の発明に、把手片を、栓体を櫛付きキャップ体に組付けた状態で、各櫛歯片および枠櫛歯片の上端部を覆う樋状構造とした、ことを加えたものである。

【0015】

この請求項3記載の発明にあっては、栓体を櫛付きキャップ体に組付けた状態である使用前の状態、栓体の把手片が、櫛付きキャップ体の各櫛歯片および枠櫛歯片の上端部を上方から被さった状態で覆うので、この各櫛歯片および枠櫛歯片の上端部にホコリ等の汚れが付着するのを防止することができ、これにより櫛付きキャップ体を清潔な好ましい状態で使用することができる。

【0016】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施例を、図面を参照しながら説明する。

図1～図3は本発明の第一実施例を示したもので、合成樹脂材料の射出成形により一体成形された櫛付きキャップ体1は、スクイズ性を有する胴部17の上端に口筒部18を立設して構成した容器体16に組付けられる。

【0017】

容器体16の口筒部18に外装螺合する組付き筒2の上端に内鑊状に連設された頂壁3の下面には、口筒部18の開口部に密嵌入する短円筒状のシール筒片4と、口筒部18上端面に密に弾接するシール条5とを設けることにより、櫛付きキャップ体1の口筒部18に対する組付きを液密に達成するようにしている。

【0018】

頂壁3の上面には、前後に扁平な起立筒6を立設し、この起立筒6の上端に連設された頂板7の上面に、左右横方向に直列にかつ等間隔に4本の櫛歯片8を立設すると共に、頂板7の両側端部分には、各1本の枠櫛歯片11が、各櫛歯片8に対して直列に配置された状態で立設されている。

【0019】

各櫛歯片8には、その上端部に、左右横方向に開口する注出孔9が貫設してあると共に、この注出孔9から頂板7の下端面まで貫通する注出路10が開設されている。

10

20

30

40

50

【0020】

また、各杵櫛歯片11の、注出孔9に対応する位置には、同様に左右横方向に開口するピン孔12が貫設されている。

【0021】

このピン孔12は、櫛付きキャップ体1の一体成形時において、櫛歯片8の注出孔9を成形するために、左右横方向に進退するピン金型を使用するので、この櫛歯片8の側方に位置する杵櫛歯片11にも、注出孔9と同様構造の、ピン金型が通り抜けするためのピン孔12が成形されるのであるが、櫛歯片8の集合部分と他の部分とを別体に成形した場合には、このピン孔12は、注出孔9と位置合わせできる箇所に成形される必要がある。

【0022】

図1～図3に示した第一実施例では、両側の杵櫛歯片11にピン孔12が形成されているが、図4～図5に示した第二実施例のように、片側の杵櫛歯片11にのみ、ピン孔12を形成してもよい。

【0023】

栓体13は、各注出孔9およびピン孔12に挿入して、各注出孔9を密に塞ぐ直線円棒状をした栓棒14の一端に、指先で摘まむ取扱いがし易い把手片15を設けた構成となっている。

【0024】

図1～図3に示した第一実施例にあっては、把手片15は伏せた樋形状をしており、この樋形状体の一端に設けた端壁に、樋形状体内に延びる形態で栓棒14を連結して栓体13を構成しており、栓体13を櫛付きキャップ体1に組付けた状態で、櫛付きキャップ体1の各櫛歯片8および杵櫛歯片11の上端部分を、この栓体13の把手片15が上方から覆うことになり、これにより使用前に各櫛歯片8および杵櫛歯片11の上端部分がホコリ等で汚れるのを防止する。

【0025】

これに対して、図4、図5に示した第二実施例にあっては、把手片15は単なる板片状をしており、栓棒14の一端に延出状に連結されて栓体13を構成しているので、きわめて簡単な構造で栓体13を構成している。

【0026】

図5に示した中栓体19は、初めて開放するまでの容器体16の密閉を確保するためのもので、別容器に収納された第二の液体を容器体16内に注入して、この容器体16に予め収納された第一の液体と混合攪拌して内容液を作成するために、容器体16から取外した後は不要物となり、内容液の作成は、栓体13を組付けた状態の櫛付きキャップ体1を容器体16に密に組付けてから、容器体16を振って達成する。

【0027】

なお、櫛付きキャップ体1は、容器体16に対する安定して強固な組付きを達成すると共に、良好な櫛機能を発揮する必要があることから、比較的硬質なポリプロピレンで成形し、栓体13および中栓体19は、安定したシール性が要求されることから、比較的軟質な低密度ポリエチレンで成形するのが良い。

【0028】

【発明の効果】

本発明は、上記した構成となっているので、以下に示す効果を奏する。

請求項1記載の発明においては、栓体を組付けた状態では、密閉機能を発揮できるものとなるので、内容液作成時に、中栓体を組付けることなく、栓体を組付けた櫛付きキャップ体を組付けるだけで良く、また内容液作成後は、栓体を取外すだけで内容液の塗布が可能となるので、内容液作成のための取扱い処理、および内容液作成後の取扱い処理が簡単となる。

【0029】

また、内容液作成後は、栓体を取外すだけで、内容液を塗布可能な状態で注出することができるので、これにより作成した内容液を、漏出による汚れを生じさせることなく、安全

10

20

30

40

50

にかつ簡単に使用することができる。

【0030】

さらに、直線棒状の栓棒の密挿入により各注出孔の密閉を達成するので、各注出孔の密閉を強固にかつ確実にそして簡単に達成することができると共に、各注出孔を一つの栓棒で密閉できるので、栓体の構造がきわめて簡単なものとなり、これにより簡単にかつ安価に実施することができる。

【0031】

請求項2記載の発明においては、高い生産性を安定して維持することができ、また内容液の注出通路面積の拡大範囲を大きくすることが可能となり、これにより内容液の流動性を高めることができ、さらに一つの金型装置で成形できると共に、組立て作業が不要である

10

【0032】

請求項3記載の発明においては、櫛付きキャップ体に組付いた栓体により、各櫛歯片および杵櫛歯片の上端部分が上方から覆われるので、使用前に各櫛歯片および杵櫛歯片の上端部分がホコリ等で汚れるのを確実に防止することができ、これにより衛生的な使用状態を安心して得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第一実施例を示す、分離状態の全体斜視図。

【図2】図1に示した実施例の、容器体に組付いた状態の全体縦断正面図。

【図3】図1に示した実施例の、容器体に組付いた状態の全体側面図。

20

【図4】本発明の第二実施例を示す、分離状態の全体斜視図。

【図5】図4に示した実施例の、中栓体付き容器体に組付いた状態の全体縦断正面図。

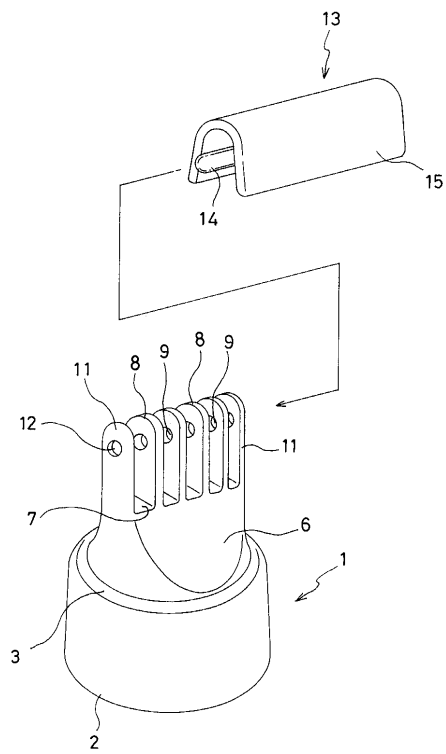
【符号の説明】

- 1 ; 櫛付きキャップ体
- 2 ; 組付き筒
- 3 ; 頂壁
- 4 ; シール筒片
- 5 ; シール条
- 6 ; 起立筒
- 7 ; 頂板
- 8 ; 櫛歯片
- 9 ; 注出孔
- 10 ; 注出路
- 11 ; 杵櫛歯片
- 12 ; ピン孔
- 13 ; 栓体
- 14 ; 栓棒
- 15 ; 把手片
- 16 ; 容器体
- 17 ; 胴部
- 18 ; 口筒部
- 19 ; 中栓体

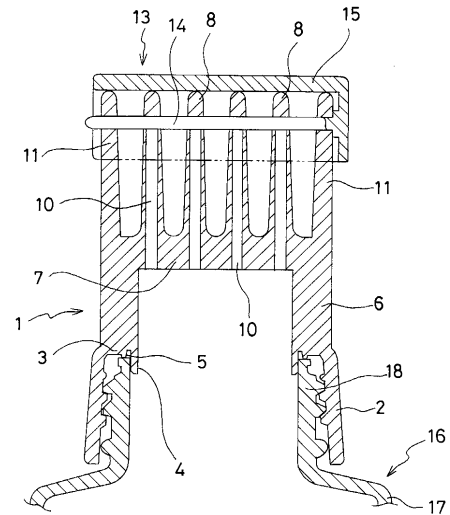
30

40

【図 1】

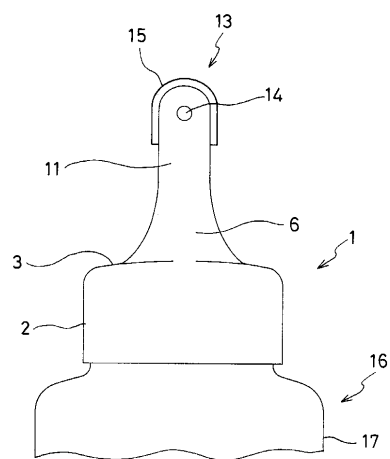


【図 2】

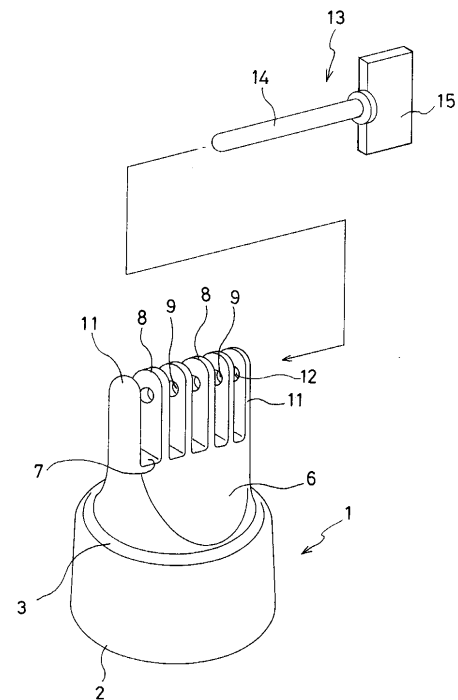


- | | | |
|--------------|-----------|----------|
| 1 ; 櫛付きキャップ体 | 2 ; 組付き筒 | 3 ; 頂壁 |
| 4 ; シール筒片 | 5 ; シール条 | 6 ; 起立筒 |
| 7 ; 頂板 | 8 ; 櫛歯片 | 9 ; 注出孔 |
| 10 ; 注出路 | 11 ; 枠櫛歯片 | 12 ; ピン孔 |
| 13 ; 栓体 | 14 ; 栓棒 | 15 ; 把手片 |
| 16 ; 容器体 | 17 ; 胴部 | 18 ; 口筒部 |
| 19 ; 中栓体 | | |

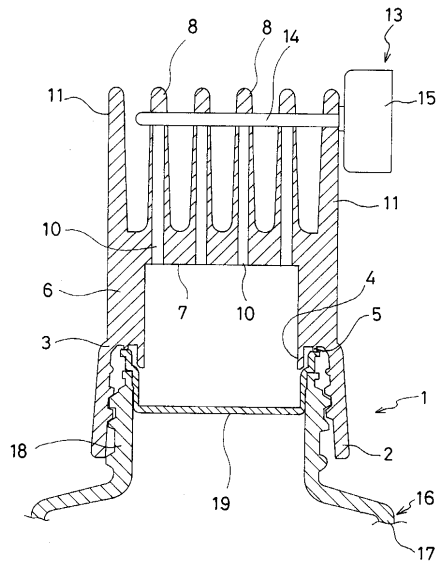
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平10-137029 (JP, A)
実開昭61-201602 (JP, U)
実開昭59-148705 (JP, U)
登録実用新案第3013625 (JP, U)
特開平09-276034 (JP, A)
実開昭52-171481 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A45D 24/22